水に対する先人の知恵と想いに学ぶ。

◆井戸端会議

「むかし、むかし、おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。」おとぎ話「桃太郎」の一節です。今では蛇口をひねるとすぐに出る水も、川や泉に水くみや洗濯に行っていた時代があったのです。人々が川などの近くに集落を作るようになったのはそのためで、川の流水や湧き水をくみ取る所を「井」と呼んでいました。やがて、人は山麓に横穴を開け、地下水を溜めて使うことを覚え、さらには地面を縦に掘って水をくみ上げる「井戸」を造るようになります。井戸の歴史は古く、弥生時代の遺跡から、その痕跡が見つかっています。

井戸を掘るには多大な時間と労力を要することから、集落に共同の井戸が作られました。井戸にはいろんな人が集まり、世間話や噂話を楽しんでいたことから「井戸端会議」という言葉も生まれました。井戸は人々の生活を支えるためだけでなく、コミュニケーションの場としても大切な役割を果していたわけです。しかし、上水道の普及とともに、井戸の存在は忘れ去られていました。

◆現代に甦る井戸

東京都世田谷区では、「災害対策用井戸」として利用可能な井戸の指定に関する要綱が制定されるなど、全国的に井戸の活用に向けた積極的な取組がされるようになってきました。

高松市においても、渇水時には「公共の井戸」や「善意の井戸」が開設され、雑用水として活用されています。井戸は災害や渇水への対策という新たな視点から、その存在価値が見直されています。

◆史跡として残る井戸

高松市の井戸は亀井の霊泉（新井戸）や大井戸・今井戸が有名です。これらの井戸は、江戸時代、高松藩主松平頼重公の命により、造られた上水道施設の水源となり、近代水道が布設されるまで使用されていました。

高松市内の水神社、井戸や地名などから、水を大切にした先人の知恵と想いがうかがえます。

今も残る貴重な史跡を散策

今井戸跡（磨屋町）

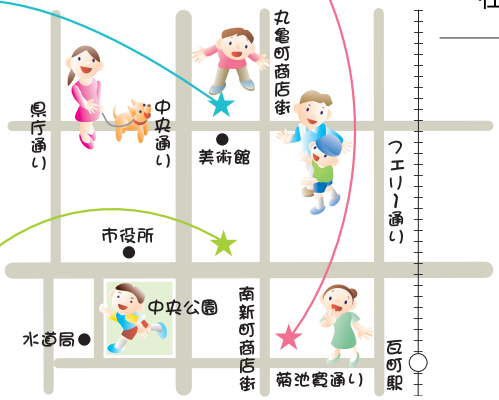
藤森神社が祀られており、境内にひっそりとたたずむ藤が往時をしのばせている。

大井戸（瓦町）

高松市の史跡に指定され、保存されている。
唯一、今も静かに水をたたえている。

亀井戸跡（鍛冶屋町）

水の湧き出る穴が亀の形をしていたので「甕井（かめい）霊泉」と呼ばれていた。
今は水神社が祀られている。



野菜の上手な洗い方講座

大根・かぶ	洗いおけでタワシなどを使い丁寧に洗ったあと、流水で全体を洗い流します。
レタス	包丁で芯をとり、その切り口を広げるように流水をあてながら洗います。布きんにくるんで水切します。
ほうれん草	水をたっぷりと入れた洗いおけで、まず葉先を振り洗いし、次に根の部分をきれいに洗います。
ブロッコリー	ひと房ずつ分けて、ざるで振り洗いします。
キャベツ	裏側の芯の周囲に包丁で切り込みをいれ、外側の葉から一枚ずつはがして流水で洗います。